

## ～ 研究に関するお知らせ ～

横浜医療センター産婦人科では、下記の研究を行います。

「本邦における Growing teratoma syndrome (GTS)の実態把握：多機関共同研究」

この研究は、条件を満たす患者さん全員を対象といたします。情報等が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、最終ページに記載のお問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### ■ 研究の対象となる患者さん

2020年1月1日から2025年12月31日までに当院産婦人科で Growing teratoma syndrome (GTS) を臨床的に疑い加療を行った患者さん

### ■ 利用する試料・情報の種類

上記の対象期間中に、診療録に記録された診療情報を研究に使用させていただきます。使用に際しては「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、個人情報 は厳重に保護した状態で行います。

### ■ 研究の概要

#### • 研究の目的及び意義

卵巣悪性胚細胞腫瘍は若年女性に好発する腫瘍であり、手術療法および多剤併用化学療法 の進歩により、多くの症例で良好な予後が得られるようになってい ます。一方で、初回治療後、腫瘍マーカーは低下あるいは正常化しているにもかかわらず、画像上腫瘍の増大を認め、切除標本では成熟奇形腫のみから構成される病変として認識される growing teratoma syndrome (GTS) という特異な病態が一定の頻度で生じることが知られてい ます。

本研究の目的は、卵巣悪性胚細胞腫瘍に続発する Growing Teratoma Syndrome (GTS) の臨床経過と切除後転帰を、多施設症例に基づき明らかにすることです。本研究により GTS の臨床経過と転帰の全体像が整理されれば、GTS を疑う時期やフォローアップの設 計、治療方針検討に資する基礎情報となります。稀少疾患である GTS について多施設 データを集約することは、診療の標準化や将来的なリスク層別化の検討基盤となりえま す。

#### • 研究の期間

実施許可日～ 2031年3月31日

#### • 研究の方法

患者基本情報（年齢、身長、体重など）、診断、血液尿検査結果、画像検査結果、治療歴、効果、合併症、予後などの診療情報を電子カルテで検索し、指定ファイルに入力してホームページ上からアップロードします。保存腫瘍組織は、パラフィンブロックの形で京都大学に郵送します。

- 外部への情報等の提供、個人情報等の取り扱い

この研究で得られた情報は、患者さんを特定できる情報（氏名、住所、電話番号等）は記載せず、本研究固有の症例番号（症例毎に採番）にて管理します。症例番号とカルテ患者 ID 等の対応表データを別途作成します。作成する対応表データはパスワード保護の上、研究責任者が厳重に管理します。

この研究の成績をまとめて学会発表や学術論文として公表されることもありますが、いずれの場合も患者さんの名前等の個人的な情報は一切公表されません。また、この研究で得られたデータが、この研究の目的以外に使用されることはありません。

- 研究の資金源

本研究は研究責任者が所属する、京都大学医学部附属病院 産科婦人科の運営費交付金を用いて実施されます。各施設の研究責任者または所属機関の収益とはなりません。

- 利益相反に関する状況

本研究における、開示すべき利益相反は特にありません。

## ■ 研究の実施体制

研究代表者：京都大学大学院医学研究科婦人科学・産科学 教授 万代 昌紀  
当院研究責任者：横浜医療センター 産婦人科部長 最上 多恵

## ■ ご質問等について

本研究に関するご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出下さい。

<お問い合わせ先>

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

産婦人科部長 最上 多恵

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

電話 045(851)2621（代表）※平日 8:30 ~ 17:15